

《巻頭言》

埼玉大学の未来と科学分析支援センター

研究機構長 佐藤 勇一

埼玉大学が昨年来進めております「学部の枠を越えた再編・連携による大学改革～ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化～」の一番目の柱は、埼玉大学の研究力強化です。ミッションの再定義に基づき強みを有する研究分野として、戦略的研究部門に3つの研究領域を設置して研究を推進しております。具体的には以下の通りです。

①ライフ・ナノバイオ領域 がん診断と転移の抑制を図るための新原理の確立を目指します。がん細胞の硬さも測れる高度な顕微鏡を開発した成果を基に、転移の仕組みなどを解明して医療現場で役立てることに挑みます。

②グリーン・環境領域 光合成の効率やバイオエネルギーの生産性などに優れた植物を人工的に作りだし、環境浄化やバイオマスの有効利用法を探ります。

③感性認知支援領域 脳の活動から意思を読み取って機械などを動かす技術を研究し、例えば高齢者の感触や感性、疲労を定量的につかみ、生活支援の機器開発を目指します。

これらの研究分野はもちろん、他の分野でも様々な研究が行われております。戦略的研究部門の研究分野も固定されたものではなく、強みを有した新たな研究分野への発展・転換を考えております。

科学分析支援センターは、学内の特に、理工系の研究および教育の支援に大きな力を発揮してきております。現在進めております大学改革の研究力強化に対しても、その役割が大きいことは言うまでもありません。今年度から埼玉県との包括協定に基づき先端産業創造プロジェクトを始めております。さらに、このプロジェクトをはじめ地域とのより緊密な産学官連携を進めようとしております。センターは今迄も地域からの依頼分析にも応えるなどの活動を行ってきておりますが、地域の期待に応える更なる活動が埼玉大学の今後には重要と考えております。センター長を初めとするセンター教職員の皆様のご尽力に感謝申し上げますと同時に、埼玉大学の置かれた状況の御理解と、更なる御支援を賜りたいと考えております。

最後に、センター創立以来科学分析支援センターの運営に関係してこられた教職員の皆様のご尽力に感謝し、引き続き一層の成果をあげていきたいと考えております。